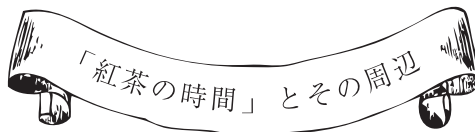


# きもちを、 言葉を さがしている



## 第 50 話

水野 スウ

### 小さな上映会@紅茶の時間

5月の「紅茶の時間」で2回、小さな上映会をしました。映画監督・三上智恵さんがいま製作中のドキュメンタリー映画「沖縄、再び戦場へ」(仮)、その番外編のスピノフ映像を、集まってくれた人たちと一緒に家のテレビで見たのです。

小さな見る会をしようと思ったわけは、三上智恵さんのこの文章を読んだから。

ウェブマガジン「マガジン9」(2023/3/22)

「三上智恵の沖縄撮影日記・第117回 敗北を撮ること～石垣島に陸自ミサイル基地完成」

<https://maga9.jp/20230322-1/>

沖縄本島の先にある宮古島、与那国島に自衛隊の基地がつくられ、この3月には石垣島にも。この島にミサイル基地ができたことを、「これで防衛の空白が解消され抑止力が高まる」と述べた陸上自衛隊トップ、その言葉をなぞるように「南西シフトの空白解消」と報じる本土のメディア。

中国が台湾に攻め込む「台湾有事」に備えての抑止力、と説明しているけど、防衛費倍増といい敵基地攻撃能力を持つことといい、軍拡レースにがっつり参加している今の日本は、戦争抑止というよりも戦争準備に邁進しているかのように私には思えます。

島で暮らす人たちが、ミサイル基地ができることをどう感じているか、マスメディアから詳しく知らされることはまず、ありません。だから知らない、知らされていない人がほとんど、もちろんこの私も含めて。

### 砂を噛む思い

三上さんはマガジン9の文章の中でこんなふうには書いています。

南西諸島の島々は長い間、「国防上の空白」などと位置付けられてこなかった。誰でもウェルカムな南の島々、日本中から世界中から愛される海と空が美しい島。それをむさぼり楽しんできた側の人間が、一方で「無防備な島」「ちゃんとして

くれないと私たちにも被害が及ぶ」と評するのは、あまりにご都合主義ではないのか。裸で泳ぎ、トライアスロンで島を一周して満喫し、帰りに「でもミサイルの一つは置いておいた方がいいよ」と言い残して帰る。そんな国民から「国防上の空白地帯」と名指しされるのは、まさに砂を噛む思いがする。

このくだりを読んだ時、私の中でほんとにジャリジャリと音がしました。沖縄の美ら海を消費するだけして帰る、そして、沖縄がある程度犠牲になるのもしかたないことだ、そんな気持ちがひょっとして自分の中にもありはしないか、そう問うてゾッとしました。

映画の完成は来年だけど、三上さんはとてもそこまで待てない。何よりいま沖縄で起きていることを知ってほしい。戦争では基地や武器がある場所が最初に攻撃される。つまり島にミサイル基地ができるということは、台湾有事の際、真っ先に島が攻撃目標になる、島が戦場の最前線になる、ということの意味してしまうのです。前の戦争のときのように。

危機感を共有して、なんとか沖縄を戦場にさせないために、できたら自分と一緒に走ってほしい。そう願う三上さんは大胆な企画を立てました。この5年間に撮りためた映像の一部を新作映画のスピンオフとして45分動画にし、それを「見る会」をしたい人に無料で貸し出します、とアナウンスしたのです。

映画のようにわかりやすく整理されていない映像を公開することに、配給会社は難色を示したけど、三上さんはそれを説得。むしろこのやり方こそが肝だと。映像が素材だとしたら、会をよびかけた主催者は、自分でお皿を用意して、自分で塩胡椒なり味づけする必要がある。この映像が伝えたいことが、どうやったらきた人に伝わるのか、自分で考えざるを得なくなる。それってつまり、この映像によって、主体的にアクションする人が増えていくということ。

「映画監督として賞賛されるために撮影してきたのではなくて、次の戦争を止めたいという思いだけで続けてきた仕事」という三上さんが、この企画に

こめた祈り。よしっ、紅茶でもしよう、ごくこじんまりサイズだろうけど、5人でも、というのなら私にもできる、とすぐに三上さんの文章の最後にある作品サイトから申し込みをしたのでした。

## スピちゃん

紅茶の時間で小さな見る会します、とお伝えすると三上さんからメッセージ。

ちっちゃくて、スウさんの言葉が届く人数がいいと思います。このままの日本ではダメなんじゃ……と思いつつ、今ある団体のどこにも違和感を持ってんだけど、じゃあどうしたら？と思ってる人、いま多いと思うんですね。この動画には、すごく頑張ってきたけど、もう頑張れなくなってる人が出てきます。それを見た人の中から、それなら私もう少し頑張れるかも！と立ち上がってくれる場面をいくつか見ました。絶望の映像が希望を連れてくる……みたいな奇跡をこのスピちゃんが起こしてくれる。それに私はめちゃ期待しています。

「沖縄、再び戦場へ」のスピンオフと聞いて、見る前から重い内容を覚悟しているけど、その映像を三上さんは、スピちゃん、って呼ぶんだ！ そうか、三上さんにとってこの生映像は自らの分身。三上さんの代わりに全国へ出かけ、沖縄の今を知らせる伝令役。だからきっと、頼んだからね、という願いを込めて、三上さんは「スピちゃん」って大切そうに呼ぶんだ。

見た人たちとスピちゃんの間どんな化学反応が起きるのか、絶望からどんな希望を見いだせるのか、私もその現場に立ち会いたくなりました。

## 1回目の見る会

申し込みをしてから2週間あまり、5月の連休中にスピちゃん、こと、スピンオフ作品見る会1回目を。ちっちゃい会と予想してたら意外や、16人も足を運んでくれました。うちわけは、小学生1人、中学生2人、20代2人——いずれも親子で参加の3

組。それに50代~70代までと年齢層も幅ひろく。

見る前に私から少しだけ注意点を話しました。今から見るのは映画じゃなくて、映画になる前の生素材。それを無料で見せちゃう、っていうくらい三上さんは沖縄の今を知ってほしいんです。映像の中に出てくるのは、宮古島と与那国島と那覇。基地に反対する人たちと自衛隊。那覇での避難訓練や集会の様子。ミサイル基地ができたばかりの石垣島は登場しません。映像にはナレーションもBGMも解説もないけど、テロップはついてるから、誰がいつ、どこで、話してるかはわかる。それでもわかんないとこあったら、見た後で話しあいの時間を持つのでどうか質問してくださいね。それじゃあ見ましょう。

45分映像の中には——宮古島にできたミサイル弾薬庫と、そこから数分の所に住む人の言葉。去年11月の日米合同軍事演習で、小さな与那国島の公道をはじめて走る戦車の映像。ずっと基地に反対してきたけど、必ず止められる、という確信がもう持てない、という人。自分が署名活動をしたことで、署名した人に圧力がかったのを知って心苦しく、もう運動にはかかわらない、という人。基地の前で自衛隊と対峙する人、弾薬が運びこまれる港（それは今まで当たり前になり降りしてきた民間の港）で声をあげる人たち、すわりこんで警察に排除される人たちの中には、沖縄の平和運動のリーダー的な存在である山城博治さんの姿も。

### 感じたことを言葉にする

見終わって、私がお茶をいれようと台所に立っている間、誰も言葉を発しない。しい〜ん。あれ？とカウンター越しに見ると、みながみな、アンケート用紙（DVDと一緒に映画配給会社の東風さんが送ってくれた）に熱心に何か書きこんでる最中でした。お茶が行き渡ってから、1時間あまりフリートーク。

- ・辺野古は気にしてたけど、宮古島がこんなになっているの全く知らなかった。家からたった200メートル、目の前に弾薬庫！
- ・三上監督の「標的の島」を見た時、三上さんが、「標

的」は沖縄のこととみなさん思ってるけど、標的は日本ですよ、と言ったの思い出した。

- ・具志堅隆松さんの言葉が刺さった。「99%戦争させないことに力そそぐのが政治家の仕事。残り1%がシェルターというならわかるが、まずシェルターありき、は順序が違う。シェルターは戦争を前提にしてる」って。
- ・シェルターに全員は入れないのが現実。だからシェルターに疑問持たないままでいるって、知らず知らず戦争に加担することかも。
- ・戦争がいつのまにかしのびよってる、って表現あるけど、全然違う。これ見れば、ずかずか、どしどし、だ。
- ・この前、金沢駅前のファッションビルの前に自衛隊の車と、いろんなサイズの自衛隊の迷彩服が置かれてたのを思い出した。子どもがそれを着て車に乗ってると、親もよろこんで写真を撮る。慣らされていく空気みたいな。
- ・分断のタネはそこら中に。署名集めも、シェルターも、避難訓練に参加する人とデモする人の間にも。
- ・「戦争できる国をつくる空気」「恐怖にあおられてはいけない」って言葉があった。あおられてるかどうか、誰がつくってる空気か、見わけの力が必要。
- ・自分でも小さいスピちゃん3回くらいできるかも。これ、私のことだと思うから。

小学生と中学生の参加があったのは、この子どもたちが春休みに家族で沖縄に行ったことがきっかけ。スピオフ作品を見たいと思ったお母さんが全国上映スケジュールを調べて、一番近い会場が紅茶だったのです。子どもたちは見知らぬ大人の中で恥ずかしかったのか、トークタイムで発言はしなかったけれど、アンケート用紙にこんな言葉を残していってくれました。

親子でマイクを持って抗議している場面が印象に残りました。自分と同じ10代の人が、親と一緒に抗議しているのを見て、この問題が身近に感じたからです。最近、家族で沖縄にいったので、もっと身近に感じました。もし自分たちの町で戦争が起こるかもしれないと考えると怖くて、沖縄

の子どもたちが今その気持ちでいると考えると心が痛くなったからです。

すごい早いペースで戦争の準備がされていることが伝わりました。自然豊かできれいな沖縄に基地がどんどんつくられて、きれいな沖縄がどんどん消えていると考えると悲しくなりました。他人事にははいけないと思いました。

印象に残ったのはミサイルがきた時のためのひなんくんれんをしてる場面。見る前は、ひなんするためにはくんれんをすることが必要だともっていたけれど、動画でそれは戦争のふんいきをつくることだといっって、たしかにそうだな、と思いました。知らないうちに、沖縄の人々の反対の声も聞かずに戦争への準備が進められているということを初めて知り、そのことに危機感を持ちました。

## 2回目の見る会

その4日後、今度は9人でテレビを囲みました。見終わった後のトークタイムにはこんな言葉が。

- ・軍隊は戦争を連れてくる、と親からずっと聞いてた。まさにそれを見る思い。
- ・どうしようもない絶望感しかない。
- ・ウクライナや「台湾有事」への不安で、強い軍備で守ってもらわないと、って意識にさせられてる。
- ・娘が、私から孫たちにもっと沖縄のこと話してと言ってくれたのを思い出した。
- ・三上さんの「標的の島」を見た時、仲間たちとすぐ沖縄に行ったけど、その後は……。あの仲間たちとまたこれを共有したい。

一人の人が言った、どうしようもない絶望感。そうだよ。でも、そのきもち、一人で胸に押し込めたまま黙って持ち帰るより、言葉に出せてよかった。一人ひとりの声を聴き、私も感じたことを言葉にしながら、ああ、こういう時間こそ貴重だと感じました。

同じものを見て、見たあと話しあう。「意見」じゃなくていい。他の人と考え違っていい。知らな

かったって正直に言っっていい。知らなくても恥ずかしくない。だってあの手この手の知らせない構造ができあがっていて、そのわずかな隙間をかいくぐる作業がこのスピちゃんだと思っから。

そのためにもミニサイズの見る会があるっていい。大会場で大人数の時よりは、たぶんハードルが低く、思っしたこと自由に言葉にしやすっいんじゃないかな。どんな会場でも、平らにものを言っあえる空気は、スピちゃんをする時の必須要素だと思っます。

## 分断のタネ

埼玉で開かれたスピンオフを見る会に行っった娘は、台湾企業で働いているという人からそこでこんな言葉を聞ったそうです。

「台湾の同僚たちに、大変なことになるね、と話題を振っっても、え、なんのこと？という反応が返っってくる。中国とすぐ戦争になるとかそんな危機感持っている人はほとんどいない。台湾には技術力があるから、そうそう簡単に中国は手を出せないというのが多くの人の認識。日本の今の状況は、なんだか意図的にあおられているような気がする」と。

そうですね、一部メディアで台湾有事が声高にいわれたり、戦闘のシミュレーションが発表されたりしているけど、そもそも台湾は無理にでも中国から独立しようとしてるだろうか。いや、それより現状維持を望んでいるはずで、騒ぎ立っているのは当事者でない日本の一部の人たちの方かも、と私は訝しむ。有事をあおるその出どころは一体どこで、それはなんのためだろう。

映像から見えてくるいくつもの分断。攻めてこられたら怖い、不安だから軍備を、なのか、そもそも争うこと自体をなんとしても避けたい、から出発するのか。そして、国や自衛隊をどうとらえているか。自衛隊やシェルターは自分たちを守ってくれるものと思っ人、と、そう思わない人と。自分がどこに立っているか、どんな情報を持っているかで、考えること見ることがまったく違っのです。

軍隊は住民を守らなかつた、沖縄は日本のために差し出された——先の戦争でそのことを骨身にしみ



て感じている沖縄の人たち、それを聞いて育った人たちの目の前に、ミサイル基地がつくられていく。あの時と同じことがまた繰り返されようとしているんじゃないか——そう感じるのはどんなに怖いことだろう。

軍がスパイ視した住民を殺したこと。集団自決を迫ったこと。人々をマラリアの蔓延する島に強制移住させたこと。三上さんが「沖縄スパイ戦史」で描いたのは、まさにその一部でした。

そうはいっても、それは80年以上も前の戦争中の話、と思うでしょうか。たしかに今の自衛隊は軍隊ではないし、災害救助の時は人々の命を助ける仕事を懸命にしてくれています。でもそれが、こと「有事」となったらまた話は違ってくるのじゃないだろうか。だって自衛隊法3条に書いてある自衛隊の主たる任務は「我が国を防衛すること」であって、国民を防衛すること、とは書かれていないのだから。

## 糸口はどこに

教師時代からフォークソングをつくって仲間と歌い、定年後の今も農業しつつ歌づくりを続けている人が、2回目の上映会のあと、こんなふうに。

ほんとにどこに希望あるんだろうか、見て伝えていくことに希望あるのかもしれないけど……。選挙も教育もマスコミも、誰かがなにかしてくれると思わないことだね。要は、私は、どうするべきか、だ。友人隣人にどう話せるか、だと思う。

軍事費倍増当たり前、になってるけど、ほんとにそうかな？と語りかける。もしそうなら、予算の半分くらい防衛費にしたらいんじゃない？と話しかけてみる。核兵器もったら平和で安全なの？なら、みんなが核兵器もてば平和なのかなあ？と問いかける。

どこかに糸口を見いだしたい。関心ない人に何をいつていくのか、それ考えていかないとなあ。なんでも反対反対というより、ふつうの人たちに問いかけるような歌をつくれればなあ。

どこかに糸口、自分ごとになってくスイッチ。う

んうん、私もほんとにそれを知りたい。一つ二つで簡単にそうなるわけないけど、私の場合はどうだったろう。思い返せば、いろんな人がいろんな場面でいろんな時に、社会のこと考えるタネを私に蒔いてくれたなあ。

たとえば原発のこと。自分の中にまだ関心がない時は、この人、どうしてこんなに一生懸命なんだろう、この人は何が気になって私にこれを伝えようとしてるんだろう、って疑問符付きで距離をとっていた。まだ全然、自分ごとじゃなかった。だけどその後、何度も、どうして？に遭遇するうち、だんだん私もその理由が気になってきて、本を読んでみようか、講演会に行ってみようか、勉強会してみようか、と。やがてバラバラだったものがつながり、うわわ、これって大変！とスイッチが入ったんだと思う。

タネを蒔いてもらっていた受け身の時から、自分ごとになっていく過程で、私は国に対しての幻想を持たなくなりました。こちらが黙っていても、国が国民のために何かいいことしてくれる、国民を守ってくれる、そんなわけないと思えたから、言い続ける、伝え続ける、書き続ける、そういう私が今いるのだ、と思います。

## 争うよりも愛しなさい

映像の最後に出てきた、那覇の街なかをデモする人々の長い列。その列の先頭に掲げられたスローガンは「争うよりも愛しなさい」。この言葉は若者からの提案でした。基地の反対運動をずっとしてきた人たちと新たに加わった若者たちが、集会とデモをつくる会議の中で話しあいを重ね、その結果、この言葉に決まったのだそうです。

2023年5月19日の沖縄タイムズに、映像の中の集会で司会をしていた平良友里奈さんが寄せた文章が載っていました。

彼女は修学旅行生などにガマをガイドする30代。沖縄でミサイル配備が進んでいることを知らない人も多く、平和学習をしても戦争が確実に風化していることを感じてきました。その平良さんも、1年前までは基地のことをどう考えていいのかわからず「難しい問題」と片付けていたといいます。反対運動を

している人たちを見て、あんなことしなきゃいいのに、とも思っていたという彼女が、記事ではこんなふうに書いていました。

SNSでは辺野古ゲート前で大声をあげて反対し争う姿だけがピックアップされた画像や動画が、沖縄の子どもたちに拡散されている。真意が伝わらず怖い姿だけが映ってしまい、それを見ただけの子どもたちは怖い、近づきたくないと思う、これが事実なのだ。

本当の想いは、子や孫に平和な沖縄を残したいと真剣に考えて行動しているのに。どんなに正しい事をしていても、次の世代に伝わらなければ、そこで終わってしまう。いかに学びやすい空気をつくるのかはとても大切だ。

世代によって発信の仕方や心に響く言葉も違う。だけどどうか信じてほしい。若者の力を！ 若者の心に届けばどれだけ大きな力になる事か。

「争うよりも愛しなさい」は、若者たちに人気のラッパーが歌う曲の中に出てくる言葉。この言葉がスローガンに決まるまで、昔から反対運動をしてきた世代と若者たちとの間でどれだけの対話と試行錯誤があったことだろう。デモの映像にかぶって「争うよりも愛しなさい、と忘れはしない、おばあの涙」の歌詞とメロディが流れていく場面、ずっと心に残っています。

### 絶望の映像がつれてくる希望

スピンオフ映像を見て、沖縄に押しつけられているのは基地だけじゃなかったことを痛感しました。「戦争」が、沖縄だけの問題にさせられている、本当は全くそうじゃないのに。戦争が始まった時は、米軍基地のある横田基地だって日本国内にある他の基地だって当然、標的にはいつているのに。ああ、だから「標的」は島に限ったことじゃなかった、日本全体のことなんだ。それを三上さんはずっと前からしつこく伝えようとしていたのだった。

ここ10年ほどの日本の中で、社会や国の役に立つ自分でなくちゃ、という空気、どんどん強くな

っているのを感じてきました。それは今沖縄で起きていることと、きっと無関係じゃない。戦争に向かおうとするどんな国も、そのスピードに差こそあれ、それまでの公共の意味をかえようとしたり、人々の意識を管理しようとしたりするからです。そのことを歴史が教えてくれています。

80数年前と今を比べてみる。あの頃の国民は何が起こっているのかわからないまま、どんどん後戻りできない状況に巻き込まれていったんじゃないだろうか。だけど今は、何が起きているかを知らせてくれる人がいて、この国がこんな戦争の準備をしていることにリアルタイムで気づける。それは、先の戦争の時代にはありえなかったことです。

旧ローマ時代から続く警句「あなたが平和を望むのなら、準備せよ、戦争を」がまさに進行中のこの国。その空気に違和感を抱いても、どうしたら良いかわからないし、考えれば考えるほど逆に無力感でいっぱいになってしまうかもしれない。私が何したって無駄さ、私なんかは何言ったって何ひとつ変わらない、と。でも多くの人がそう思うことは、一体誰を喜ばすことだろう、誰にとって都合がいいことだろう。

スピちゃんが見せてくれるのは、これまでずっとあらいがけ、選挙でも県民投票でも意思表示を続け、それがいっさい聞き入れられることなく、それでも諦めなかった人たちが、今諦めそうになっている。「不屈」と呼ばれた火が消えそうになっている。その姿です。

それを目の当たりにしたときに、自分はこれまでいったい何をしてきたのか、と思う。こんなに抗ってきた人たちの痛みを、恐怖や怒りや絶望や悲しみを、私はちゃんと感じてきていたのだろうか。何もしてこなかった私が簡単に諦めちゃっていいのか、簡単に絶望していいのか。

映像を見終わったあと、感想を言おうとしても、どうしたらいいんだろう、なんて言ったらいいんだろう、わからない、という思いでいっぱいになる。人に伝えるために言葉にしようとする、自分がいかにわかっていなかったのかがよくわかる。それが、

スピちゃんなんだ。上映会しました、まる。見ました、まる。で終わらない。だけどそのわからなさを、ぽつり、ぽつりと言葉にしてい。わからなさを共有していく。

いろんな人の思いを想像してみる。どんなに意思表示をしても、次々基地をつくられていく、黙っていれば島が戦場にさせられていく、と絶望する人たちのきもち。その一方で、少しでも安心して避難訓練に参加する人のきもち。

戦争はいやだ。平和でいたい。そこは共通しているのに、どうしてこんなにもすれ違う？ いったいどういう言葉でなら対話ができるんだろう。45分映像を見た後、手探りしながら少しずつ言葉にしてい。途中で、真っ暗闇の中に、あっ、と何かかすかに見えてくるような瞬間。それを生む場がこのスピちゃんなのかもしれません。

たった2回だけでも見る会をしてみて、私は、一人ひとりの力をもっと信じたい、と思いました。そう考える時、私は「個人」という言葉がはじめて書き込まれた憲法13条を思い出します。

ミサイル基地、アラート、避難訓練、とどんどん既成事実がつくられて、平和のためには戦争も仕方ない、という空気に吞まれそうになります。だけどその空気には加担しないぞ。ぐっとおへその下に力をこめて、流されないよう踏みとどまる。それが、国のために命を投げ出す「臣民」から、私を生きる「個人」へと変わったことの意味なのだと思うのです。

## スピちゃん増殖中

三上さんが3月に呼びかけた「スピノフ見る会をしませんか」は、その後、全国で増殖中。これまでどのくらいの数の見る会があったか三上さんにお聞きすると、5月末までに350ほどの申し込み、それぞれ複数回見る人が多いので、正確には言えないけどだいたい1000回くらいかしら、とのこと。

それは、映画完成前の映像作品を無料で貸し出す、と決意した三上さんの祈りを受け止める／受け止めた人たちが、日本中にいるということ。こういった草の根ムーブメントのひろがりには、タネ蒔く人、タネ運ぶ人、見る会をする畑を用意する人、見る会

を育てる人、宣伝する人、見た感想をSNSにあげる人、つぶやく人、それこそ多様な人たちのいろいろなはたらきが必要。

見る会を主催した人や見た人たちが、何度もスピ、スピ、と会話のはしばしに口にする、SNSで話題にする。そうすることで、最近あっちこっちでよく聞くスピちゃんって何のこと？何なの？と気になってくる人がふえるかもと想像します。

映像からは言葉以上に、島の人たちの悲しみやあきらめやいきどおりが伝わってきてひりひりするかもしれないけど、全国にちっちゃなスピちゃんがアメバみたいひろがってくれることを願っています。

スピノフを見る会は、有料にしてもいいし、しなくてもいいのです。紅茶でした時は参加費はただかずに、「沖縄、再び戦場へ」(仮)の製作費応援のためのカンパを募って、その全額を「沖縄記録映画製作を応援する会 事務局」(配給会社東風内)に送金しました。主催してかかった費用は、DVDを返却する時のレターパック代370円なり。

なお、2024年春に公開予定の新作映画には、スピノフ作品で使われた映像は一部しかはならず、だいぶ違うテイストの映画になります、と、三上さん。スピちゃんを全国で広げながら、危機感を共有しつつ、映画の完成を待つ人たちの裾野がどうかさらに広がっていきますように。

2023/5/31

▼見る会の申し込みはこちらから

『沖縄、再び戦場いくさばへ(仮)』スピノフ作品〈45分〉上映会のご案内

<https://okinawakiroku.com>